

奄美・琉球と同緯度地域の自然環境について

- 地球上の気候帯のうち、亜熱帯地域は温量指数が 180～240 の間に分布するといわれ、熱帯の高緯度側の、南・北緯 20～30 度の間に位置する地域が含まれる。さらに、降水量によって湿潤気候と乾燥気候に分けられるが、世界の亜熱帯地域は中緯度乾燥帯に相当するため、降水量が少なく乾燥し、森林に乏しく草原や乾燥帯となっている地域が多い (図 1)。
- ユーラシア大陸東岸は、熱帯から亜熱帯、暖温帯を経て、寒帯までほぼ途切れることなく森林が続いている。屋久島とトカラ列島の間で温量指数が 180 になり、ここが亜熱帯の北限といえる。また、台湾とその南東の蘭嶼島の間で温量指数が 240 となり、亜熱帯の南限といえる。
- 奄美・琉球はこの温量指数が 180～240 の間に位置するとともに、年間降水量が 2000mm を越える (図 2)。そのため「温暖で湿潤な亜熱帯地域」を反映して、世界的には稀な、亜熱帯多雨林が発達している。これには近傍を流れる暖流の黒潮とモンスーンが大きく影響している。

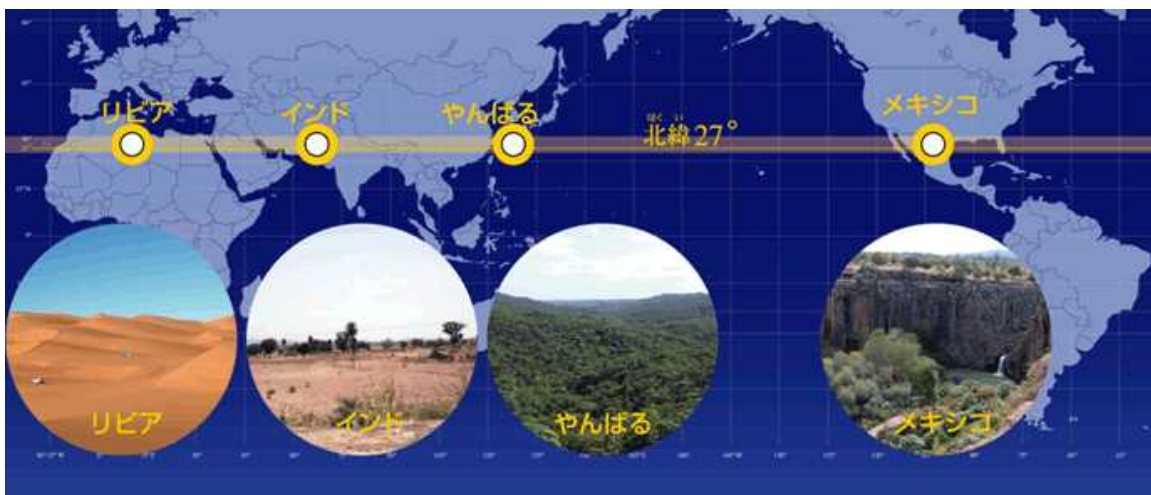


図 1 奄美・琉球と同緯度の地域の比較

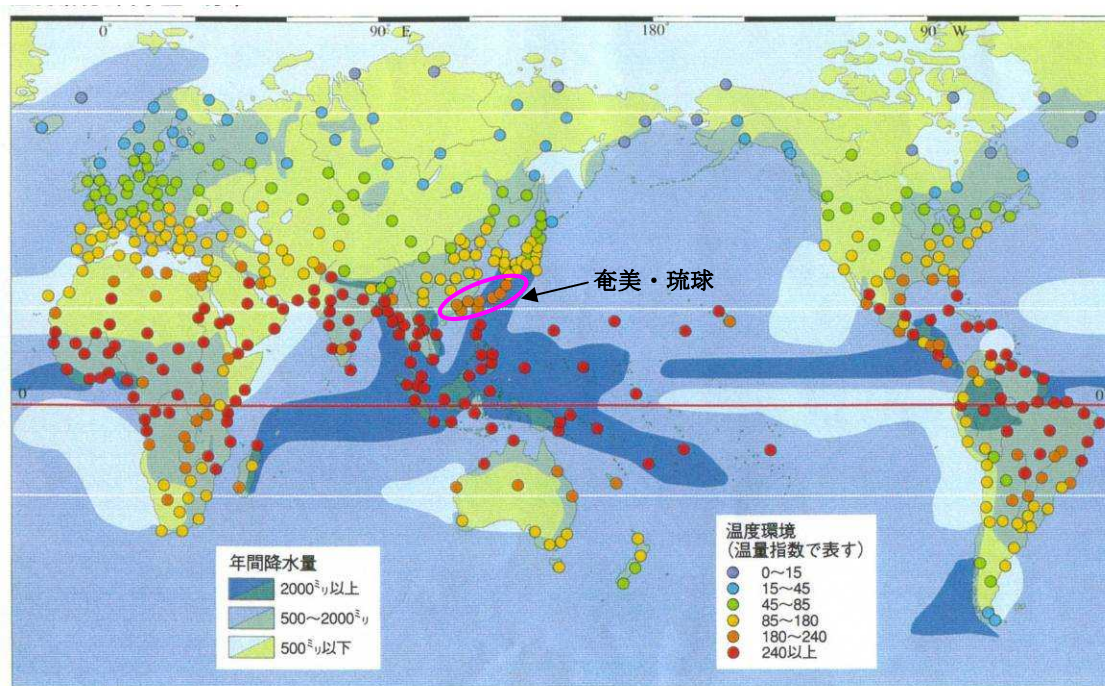


図 2 地球上の温度環境と降水量の分布

出典：堀田.1997. 地球環境と植物の暮らし. 朝日百科 植物の世界 13 植物の生態地理. より作図